

平成30年6月19日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2017

課題番号：26370127

研究課題名（和文）経験と感性の継承 技法書データベースの構築

研究課題名（英文）Inheritance of experience and sensitivity - Database construction of technique books

研究代表者

染谷 香理（SOMEYA, KAORI）

東京藝術大学・大学院美術研究科・助教

研究者番号：90572579

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、これまで主観が反映されやすく曖昧であるが故に研究されてこなかった日本画の技法書に着目し、データベースを作成して一度に多量の情報を比較できるようにすることで、画家の経験や感性に基づく技法を正しく理解し継承することを目的としたものである。データベースには江戸中期から明治期に刊行された日本画の技法書を十数篇ほど登録し、技法別の検索とフリーワードによる検索を可能にした。また併せて江戸中期から後期の日本画技法書の翻刻集の編纂も行った。

研究成果の概要（英文）：In this study, through focusing on the technique books of Japanese paintings which have not been studied because of their subjectivity easily reflected and their ambiguity, it is aimed to understand and inherit correctly the techniques of painters based on experience and sensitivity by creating a database to make it possible to compare a large amount of information all at once. In the database, more than 10 technique books of Japanese paintings published from the middle Edo Era to the Meiji Era were registered, enabling the search by technique terms and free words. At the same time, a collection of reprints of the technique books of Japanese paintings from the middle Edo Era to the late Edo period was also compiled.

研究分野：日本画

キーワード：日本画 技法書 データベース

1. 研究開始当初の背景

江戸中期までの日本画の技法は、他の伝統技法と同様に口伝で伝えられることが多く、流派ごとに秘伝として扱われ、具体的に記述されることはなかった。しかし、元禄期に門外不出の秘伝書として、土佐光起が『本朝画法大伝』を著すと、それを皮切りに、江戸の出版ブームにも乗じて、次々と日本画の技法書が刊行されるようになった。これら先人たちの知識と経験及び感性の集合体ともいえる技法書は、単に物質である材料とは違い、画家の価値観や精神性をも反映しており、絵を描くためにいかに画題や材料と向き合い、何をどう大切に扱ってきたかを窺い知ることが出来るものである。にもかかわらず、近年では科学分析によって結果の得やすい材料の方が着目されやすく、技法に関する研究が進んでいない状況であった。しかしながら、本間良介がその著書『日本画を描く人の為の秘伝集』で、墨や胡粉の溶き方を例に挙げ、「所作は物理的であるが、その結果は今日の最も新しいコロイド化学の理に協ふと説明する事が出来るが、コロイド学者に墨や胡粉の発明を期待しても、必ずしも可能の技ではあるまい」と謳うように、科学は先人たちのしてきたことがいかに正しかったかを証明することに留まる事が多く、経験や感性の反映された所作を作り出すことは出来ない。そのため先人たちの経験と感性の集合体である技法書の整理分類を行う事は、今後我々がどのように制作に向き合っていくかを考える上で非常に重要な作業である。

2. 研究の目的

本研究では、これまでに刊行されてきた多量の技法書のデータベース化を実現することで、技法書を客観的に読み解くことを可能にし、画家の経験や感性に基づいて継承されてきた技法を正しく読み解き、継承することを目的としている。

これまで技法書を読み解く上で、一冊の技法書について読み解かれることは大いにあったが、一つの技法に関して、時代や流派を超え、横断して読み解かれることが少なかった。その理由として次のような問題点が考えられた。技法書を何冊も入手し読み解くことが困難である。技法書として刊行されていない書簡や随筆等については、目的の技法の記述されている箇所を探し出すだけでも、時間を有する作業である。これまで日本画の画論集成というものは存在していたが、技術面からの視点でとりまとめられたものは存在しておらず、翻刻が行われていない文献も多く存在している。そこでデータベース化を行うにあたり、翻刻されていない文献の新たな翻刻を行い、登録にあたってはルールを設けた上で、現代仮名遣いを使用することとし、技法ごとに文章を区切り、それぞれの文章にはそれにあたる技法のタグ付けを行ったうえで登録することとした。

3. 研究の方法

(1) これまでの研究でデータベースの版の作成を終えており(芳泉文化財団平成21年度助成、染谷香理「技法書分析のための基礎研究」)、著者の立場や技法書としての体裁の異なる四篇の文献の収録を終えているため、まずはその版の公開をWeb上で行う。その上で、運営や利用上での問題点等を明らかにし、改変を行う。

(2) 平行して新たな文献の収集や翻刻、テキスト入力、校正を進め、技法ごとに整理分類し、データベースへの収録を行う。収録にあたっては次のようなルールを設ける。

- ・ 坂崎坦『日本絵画論大系I～V』に収録されている文献はこれを底本とする。
- ・ 旧字、俗字は新字もしくは正字にする。
- ・ 漢文、返り点は読み下す。
- ・ 送り仮名、ひらがなは現代仮名遣いに直す。
- ・ 新字であっても難読漢字(とくに副詞やこそあど言葉)はひらがなにする。
- ・ あきらかな誤字、あて字は原文ママとし、註を入れる。
- ・ ふりがな等は単語の後に、括弧で入力する。

(3) 技法書において、その刊行された背景や著者の立場は読み解きを行う上で非常に重要な要素である。そのため技法書のデータベース化の作業とあわせて、収録する文献の解題集の作成も行う。

(4) 技法書に記された技法について、サンプルの作成を行う。

4. 研究成果

現在、データベースは<http://hiden.geidai.ac.jp>において公開を行っている。

(1) データベースの仕様について
これまでに作成していたデータベースに、改変を加え、データベースの仕様は次の通りとした。

カテゴリー検索

カテゴリー検索はリストボックスから閲覧したい技法を選択して行う。検索結果画面を指定件数ごとに表示し、チェックボックスでチェックした検索結果の詳細画面を見ることが出来る。

フリーワード検索

文献の本文部分をスペースで区切って、andもしくはor検索を行う。検索結果の表示方法はカテゴリー検索と同様である。

書誌情報照会

データベースの収録文献をリストボックスから選択して検索する方法と、文献の目次をフリーワードで検索する方法の二種類ある。

(2) データベースの収録文献

本科研において最終的に収録し終えた文献

は以下の通りである。

- ・ 土佐光起『本朝画法大伝』一六一七年
- ・ 著者不詳『御絵鑑』一七〇〇年
- ・ 西川祐信「画法彩色法」『画本倭比事』一七七四年
- ・ 大江玄圃 円山應挙「学翼」『問合早学問』一七七四年
- ・ 窪俊満『画鵠』一七八三年
- ・ 宮本君山『漢画独稽古』一八〇七年
- ・ 桓齋 鹿田孝清『画伝幼学絵具彩色独稽古』一八〇三年
- ・ 椿椿山『椿山書簡』一八四六年
- ・ 著者不詳『狩野氏小伝』年代不詳
- ・ 駒井龍仙 幸野煤嶺『絵具使用法』一八九〇年
- ・ 結城素明『画法一斑』一九三〇年

データベースへの登録が当初予定していた文献数に及ばなかったが、技法書としては充実したものから登録を行ったため、かなりの技法について年代や流派を超えて検索が可能となり、利用者が技法についての深い知識を得ることが可能となった。また現在では使用されなくなってしまった画材やその技法を収録することが出来たため、貴重なデータを蓄積することが出来た。

(3) 翻刻集の作成

データベースでは原文を現代仮名遣いに直して登録を行っているが、利用者から原文に則した技法書集成を紙媒体でも作成してほしいとの要望も多く、データベースの作成とは別に、技法書の解題・目次・翻刻・画像を収録した江戸期の翻刻集として、『日本画画材関連史料翻刻集 (江戸中期篇)・ (江戸後期篇)』の作成も行った。翻刻集に掲載した文献は以下の通りである。

【 (江戸中期篇)】

- ・ 土佐光起『本朝画法大伝』一六一七年
- ・ 狩野永納『本朝画史』一六九三年
- ・ 著者不詳『御絵鑑』一七〇〇年
- ・ 貝原益軒『万宝秘事記』一七〇五年
- ・ 林守篤『画筌』一七二一年
- ・ 西川祐信「画法彩色法」『画本倭比事』一七七四年
- ・ 円満院門主祐常「秘文録」『万誌』一七七三年
- ・ 大江玄圃 円山應挙「学翼」『問合早学問』一七七四年
- ・ 建部凌岱『漢画指南』一七七九年
- ・ 窪俊満『画鵠』一七八三年

【 (江戸後期篇)】

- ・ 宮本君山『漢画独稽古』一八〇七年
- ・ 桓齋 鹿田孝清『画伝幼学絵具彩色独稽古』一八〇三年
- ・ 著者不詳『絵本彩色指南』一八四〇年
- ・ 椿椿山『椿山書簡』一八四六年
- ・ 葛飾北斎『画本彩色通』一八四八年

- ・ 著者不詳『狩野氏小伝』年代不詳

これらのうち、『御絵鑑』、「秘文録」『椿椿山書簡』の翻刻については、それぞれ、綿田稔「研究資料 御絵鑑-元禄十三年板の画法書-」『美術研究第四百八号』二〇一三年、佐々木丞平、佐々木正子『円山應挙研究 研究篇』中央公論美術出版、一九九六年、坂崎坦『日本絵画論大系』名著普及会、一九八〇年からの引用であるが、その他の文献に関しては、本研究で新たに翻刻を行ったものであり、これら技法書の翻刻とその画像を収録した“技法書集成”を作成したことは、これまでの当該分野の研究において、画史や画論の集成はあっても技法書の集成は存在し得なかったため、特筆すべき成果であると考えられる。また研究開始当初は翻刻集の作成を予定していなかったが、データベースでは再現できない文献の体裁等を画像や文字で記録することができた上、研究期間中に作成した色見本サンプルなどを収録することができ、非常に有意義なものとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4件)

- ・ 染谷香理『日本画画材関連史料翻刻集 (江戸中期篇)』、2018年、査読無
- ・ 染谷香理『日本画画材関連史料翻刻集 (江戸後期篇)』、2018年、査読無
- ・ 染谷香理「(資料)日本画技法書便覧〔江戸中期～幕末篇〕」『東京藝術大学美術学部論叢第12号』、2016年、pp.1-pp.20 査読有
- ・ 染谷香理「研究資料 画伝幼学 絵具彩色独稽古(天保五年)」『美術研究 第四百十四号』、2015年、pp.35-57、査読無

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 1件)

- ・ 宮廻正明 荒井経 鷹野佳世子 他『日本画名作から読み解く技法の謎』世界文化社、2014年、pp.222-223

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://hiden.geidai.ac.jp>

技法書データベース 版

6. 研究組織

(1) 研究代表者

染谷 香理 (SOMEYA KAORI)

東京藝術大学・大学院美術研究科・助教

研究者番号：90572579

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

鈴木 愛乃 (SUZUKI YOSHINO)

東京藝術大学大学院・修士課程修了